

報告事項 ソ

「鳥取藩士たちの住宅事情―所蔵武家屋敷絵図を中心に―」
(歴史民俗常設展示室「歴史の窓」展示替え) について

「鳥取藩士たちの住宅事情―所蔵武家屋敷絵図を中心に―」(歴史民俗常設展示室「歴史の窓」展示替え) について、別紙のとおり報告します。

平成20年7月15日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

鳥取藩士たちの住宅事情－所蔵武家屋敷絵図を中心に－

（歴史民俗常設展示室「歴史の窓」展示替え）

江戸時代の鳥取城下と鳥取藩士たちの暮らしを、今回が初公開となる県立博物館所蔵の武家屋敷絵図などから紹介します。

1 概要

江戸時代の鳥取は、鳥取藩32万石の城下町として、政治や行政、商業、さらに文化の中心として栄え、幕末ごろには5000人を超える武士たちが居住し、大小さまざまな武家屋敷が建ち並んでいた。しかし、近代化の影響や度重なる災害のため、武家屋敷のほとんどが取り壊され、現在では旧岡崎邸や旧福田丹波邸など数棟を残すのみとなっている。

今回の展示では、江戸時代の鳥取城下についてわかりやすく解説するとともに、武家屋敷の様子や建物の内部の姿を、初公開となる当館所蔵の武家屋敷絵図や城下町絵図を中心に紹介する。

2 展示テーマ 「鳥取藩士たちの住宅事情－所蔵武家屋敷絵図を中心に－」

3 主な展示資料

弘化4（1847）年 家老鶴殿家お堀端居屋敷図（当館蔵）

現在の久松小学校敷地にあった、家老鶴殿家（6000石）の屋敷図。広大な敷地面積を持つ上級家臣の屋敷。

明治3（1870）年 佐分利九允家行徳屋敷図（当館蔵）

現在の鳥取市行徳にあった、1300石の物頭佐分利家の下屋敷図。場末の下屋敷の用途がわかる貴重な絵図。当主は藪片原の居屋敷にいたため、敷地の一部が百姓や町人に貸し付けられ、農地として利用されていた。

文化9（1812）年 佐橋家大榎町焼失屋敷図（当館蔵）

現在の鳥取市大榎町にあった、佐橋家（400石）の屋敷図。文化9年、当家の馬屋から出火した火事は、鳥取の城下を焼き尽くす大火となった。

年未詳 角田家屋敷図（当館蔵）

下級家臣の角田家（70俵6人扶持）の屋敷図。典型的な下級武士の武家屋敷の形態。

4 展示期間

平成20年7月15日（火）～9月7日（日）

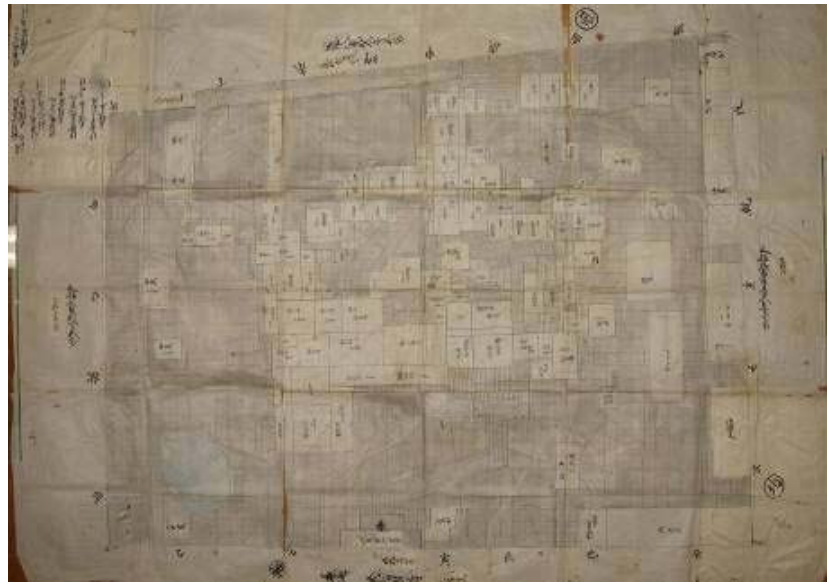
5 展示場所

鳥取県立博物館1階

歴史民俗常設展示室「歴史の窓」コーナー

展示資料例

家老鶴殿家お堀端屋敷
(現鳥取市立久松小学校)



展示資料例

下級家臣角田家の屋敷

